



新宿山吹だよりは、保護者の皆さんにも読んでもらって下さい。

ChatGPTやBard等、生成AIに関して

校長 永浜 裕之

米新興企業オープンAIが開発した「ChatGPT」（チャットGPT）に代表される生成AIは、大量のデータを自己学習し、人が作成したような文章や画像を作り出します。昨年11月に無料公開された「GPT-3」は、今年4月に「GPT-4」に改良され進化を遂げています。高い利便性で私たちの暮らしが変革されると期待される一方、誤情報の生成や著作権侵害など、様々な負の側面も同時に報じられています。ソースコードを修正すれば、都合のよい文書を生成させることも可能です。利用や規制の在り方など、議論の行く末が気になりますが、**特に情報科で学ぶ生徒の皆さんは、興味をもって見守り、自分の意見を持ってほしいと考えます。**

オープンAIのサイトには、「2021年までに収集された、WEB上にある570GBの処理されたテキストデータを基に回答します。またユーザーのフィードバックを用いて、継続的に学習を行っています」と記載されています。**WebページやSNSなど、ネット上にある膨大なデータを読み、文書中の単語や単語の関係性などを学ばせているわけです。懸念すべき点はネット上には正しい情報だけが存在するのではなく、誤った情報や著作権で保護された情報もあるという現実です。誤情報や個人情報、著作権で保護された情報をAIが学び、その情報を基に誤った文書が生成されたり、著作権を侵害している文書を生成したりしてしまう可能性があると考えます。**

欧州連合（EU）は生成AIを厳しく規制する方向で、米国も生成AIによる権利侵害に懸念を表明しています。G7広島サミットでも生成AIは主要議題となり、著作権侵害や偽情報対策など、生成AIが抱える課題に関する見解をまとめる「広島AIプロセス」に着手し、年内を目途に結論をまとめることが決まりましたが、私は、活用に前向きな日本と、特に欧州との間に温度差を感じました。

「ChatGPT」のソースコードは非公開のため、大量のデータをどのように学習させ、利用者の評価を基に、どのように最適な表現を学ばせているのかは、ブラックボックスの中です。

試しに、「**5月、新宿、新緑をテーマに小説を書いて**」と指示すると、スラスラと、以下のような物語を生成しました。

タイトル：「緑の都、新宿」

「5月の新宿は、まばゆい新緑に包まれた都会の中で、様々な物語が紡がれていく。人々は春の息吹を感じながら、新たな出会いや変化に胸を躍らせる。舞台は新宿御苑。広大な敷地内には、青々と茂る木々に美しい花々が咲き誇り、訪れる人々に心安らぐひとときを見据える。その中で、主人公・佐藤悠太は、都会の論争を忘れ、緑の中でひとり静かな時間を過ごしていました。ある日、彼はベンチで本を読んでいる最中、隣に座っていた女性・鈴木美咲と出会う。彼女もまた新緑を愛する人であり、二人はすぐに意気投合する。隠れた穴場スポットや緑の魅力を教えてくれる。・・・(以下、略)」

531文字の文章を生成するのに要した時間は約30秒で、表現のぎこちなさなどは見られません。

他にも、文章の要約や翻訳、小説や詩の作成、数学等の問い、プログラミングなど、指示を与えて生成させてみました。

明らかに誤りの文章が生成される場面も散見されました。「永浜裕之の経歴を教えてください」では、「野球解説者」と説明される文章が生成され、再度、同じ質問をすると、「小説家」と説明する文章が生成されました。「日本の歴代の総理大臣を教えてください」では、井上ひさしや織田信長の名前がありました。

試用して、**英語での問いかけと比較して日本語の回答精度が低い**という印象を持ちました。学習練度の差が原因と思われます。

しかし、日本語での問いかけに対し、**もっともらしい日本語が表示されるため、知識がない状態で読むと、どこが正しくどこが誤りなのか判断できず、危うく感じます。**オープンAIのサイトにも、「不正確な情報を返すことがある」と注意書きがあります。

教育上の懸念も報道されています。たとえば読書感想文を生成AIに書かせても、自然な文章が生成されるため、人が書いた文章なのかAIが書いた文章なのかを見分けるのは困難です。Webページで公開されている情報を、生徒がコピー&ペーストして利用することが問題として指摘されることがありますが、生成AIは教育上の新たな課題となる可能性が指摘されています。**教育上の取り扱いについては、G7教育相会議でも話題になり、今後、論点整理や方向性が示されますので、注意深く見守っていきたいと考えます。**

生成AIの動作原理を考えると、国会や行政機関で活用するには慎重であるべきと考えます。AI研究者の松原 仁 東大教授は、「原理的には膨大な情報から予想した言葉を次々とつなげているだけで、AIが文法を正確に理解しているわけではない」としています。

1990年代、デジタルテクノロジーは自由に国境を越え、統制するのが難しいと言われました。中国のような独裁体制は情報を統制できず、崩壊すると予測する人もいました。マイクロソフトのビル・ゲイツ氏は「中国政府はインターネットを統制できる」と主張する人に対し、「クギでゼリーを壁に固定させるのと同じだ」と笑い飛ばしました。しかし中国はゼリーを壁に固定できたのです。

私は、歴史的な転換点に来ていると感じます。私たちは一度立ち止まり、**極めて短時間に起きた大きな変化に、どう対応すべきか考えなければならない、と考えます。**生徒の皆さんも、当事者意識をもって共に考えていきましょう。

令和5年度東京都教育委員会教育長 都立新宿山吹高等学校視察について

副校長 西牧 桂

5月10日(水)、浜 佳葉子 東京都教育委員会教育長をはじめ、都教育委員会幹部の皆さんによる視察が行われました。4月中旬に視察の打診を受け、どの授業を見て頂くかといったことから、生徒や教員との懇談の進め方等、和気あいあいと準備をすすめました。準備を進める中で、教職員や生徒の成長につながる場面が多くありました。都教育委員会の担当者とも打ち合わせを重ねるなど、とても良い経験となりました。

新宿山吹高校の概要として以下の内容をお伝えしました。

定時制課程に関しては、校則や制服がなく、学校行事や部活動への参加は自由であり、同調圧力を感じる事が少なく学校生活を送ることができる学習環境や、生徒に寄り添った充実した相談体制が整備されていることをお伝えしました。

通信制課程に関しては、令和4年度から学年進行で実施している電子レポートや、本年度より本格実施しているWeb学習コース等を紹介しました。

また、定時制・通信制ともに、進学に力を入れており、定時制・通信制高校としては、高い進学実績をあげ、国公立大学や、早慶上智理科大・GMARCH等の難関私大に現役で、両課程合わせて50名以上合格していることも報告しました。

定時制課程2名、通信制課程3名の生徒と教育長との懇談では、生徒が、新宿山吹高校での活動や将来への夢について、自分の意見や考えを語りました。浜教育長の質問に対しては、生徒一人一人がしっかりと思いを語っていたのが印象的でした。

参加した生徒は、「都教育委員会のトップの方とお話しできて嬉しい」「笑顔で私たちの話を聞いて下さり、将来の夢を応援して頂いて感激しました」「夢の実現に向けて頑張ろうという気持ちになりました」等の感想が寄せられました。

浜教育長からは、特色ある教育方針のもと、このような生徒を育成していることは、校長先生をはじめ、教職員の指導の賜物であり、東京都教育委員会としても、とても誇らしいというお褒めのお言葉を頂きました。

有意義な機会を賜りまして、とても感謝しております。

なお、当日の流れは、以下のとおりです。

1 日時 令和5年5月10日(水) 午前10時20分から午後12時55分まで

2 視察内容

(1) 校長挨拶・学校概要説明

(2) 定時制課程授業視察(10:45~11:15)

ア 英語「コミュニケーション英語Ⅱ」 イ 公民「倫理」 ウ 情報「課題研究」

(3) 通信制課程の取組(11:20~11:50)

ア 「ICTの活用による通信制課程の改善・充実への取組」

イ 「電子レポート1通目チャレンジ学習会」 ウ 「オンラインホームルーム」

(4) 料理研究会生徒等による昼食試食会(11:50~12:15)

(5) 生徒との意見交換(12:15~12:40) 【出席生徒】定時制課程(2名)・通信制課程(3名)

(6) 懇談・校長謝辞(12:40~12:55) 【出席教員】定時制課程(3名)・通信制課程(4名)



定時制課程 学校行事予定

6月5日(月)~9日(金) 前期中間考査
12日(月) 体力テスト(始) 避難訓練 教育実習(始)
15日(木) 自己探索学習②
16日(金) 体力テスト(終)
23日(金) 上級学校授業体験 「人間と社会」演習
30日(金) 教育実習(終)

通信制課程 学校行事予定

6月3日(土) スクーリング1-5
10日(土) スクーリング1-6
17日(土) スクーリング1-7
24日(土) スクーリング1-8
7月1日(土) スクーリング1-9
8日(土) スクーリング1-10
15日(土) スクーリング1-11